




JA 丹波ひかみ  
第9次営農振興  
3カ年計画書

# TAP21

Tanbahikami Agriculture Plan  
2016 - 2018



ゆめ  
—希望とうるおいのあるまちづくり—

 JA 丹波ひかみ

# 組合長あいさつ



丹波ひかみ農業協同組合

代表理事組合長 荻野 友喜

爽やかな初夏を迎え、組合員の皆さまには益々ご健勝で、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

平素は、JA事業に格別のご支援ご協力を賜っておりますこと、心から厚く御礼申し上げます。

さて、国内の農業情勢、とりわけJAグループにとりまして、昨年は大きな転換を迫られる年となりました。環太平洋連携協定（TPP）が大筋合意され、この協定が発効すれば日本は農林水産物の約8割で関税を撤廃することになります。また、8月には改正農協法が成立し、「組合員のために最大の奉仕をすること」「農業所得の増大に最大の配慮をすること」が明記されました。これを受けて、昨年10月に開催された第27回JA全国大会では、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標に据え、組織一丸となって取り組むことが決議されたところです。

こうした方針のもとJA丹波ひかみでは、「地域農業の持続的発展をめざして」を基本目標とした第9次JA運動3カ年計画を策定するとともに、特に営農関連事業の具体的取組方向を示した第9次営農振興3カ年計画をあわせて策定いたしました。

この営農振興計画では、丹波市の基本となる特産物の生産拡大と品質向上、丹波ブランドの更なる確立と6次産業化による高付加価値販売、加えて地産地消の取組拡大など、様々な実践方策を示すことにより、農業所得の向上を図ることをめざしています。

こうした持続可能な地域農業の実現に向けた諸施策を実践するにあたり、営農改善支援積立金を活用した、農家・担い手への様々な支援策を講ずるとともに、JA組織においても新たな事業運営態勢を整備することで、JA丹波ひかみが先頭に立って元気な地域農業の牽引役を果たしてまいりたいと考えております。

農業を取り巻く環境は今後益々厳しくなることが想定されますが、第9次3カ年計画の確実な実践とともに、農業の発展を見据えたJA改革に役職員一同、総力を挙げて取り組んでまいりますので、なお一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## CONTENTS



組合長あいさつ	1
管内の農業概要とその推移	2
組合員・農業者意向調査	3～4
JA全国大会決議・兵庫県JA大会決議	5
第9次営農振興3カ年計画 2016-2018	6～17
営農指導・特産販売体制の整備	18
営農MAP・連絡先	裏表紙